

第633回番組審議会報告
2018年11月20日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員 砂間裕之委員
太平信恵委員 津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田常務 浜田取締役 宮田取締役
高山報道局長、奥田番組編集部長、富永プロデューサー
高山コンプライアンス室長 菅野番組審議会事務局長

◆報告事項

10月26日の再免許の交付の際に、総務省から出された「地上基幹放送局の再免許に当たっての要請」についてコンプライアンス室長が番組審議会に報告した。

◆審議事項

テレビ番組「災害列島ニッポン その時、何を信じれば」
(2018年10月7日(日)15:00~15:54放送)について意見交換した。

【番組概要】

死者200人以上という被害が出た平成30年7月の西日本豪雨から3か月。この豪雨災害では、自治体が作成した「洪水浸水ハザードマップ」や「土砂災害警戒区域」に近い箇所で被害が発生。また自治体から「避難勧告」「避難指示」などの避難情報も出されたものの、避難せず被害にあった住民も多い。自治体の「避難情報」と住民の「避難行動」の不一致がなぜ起こり、どうすればそれを解消できるかを、岡山・広島・愛媛の全自治体(70市町村)を対象とするアンケート調査を行い、検証した。豪雨被害があった西日本3県のJNN各局とMBSの4局共同制作。

【各委員の主な意見は次の通り】

*災害時の問題点をコンパクトに整理して見せるCG映像はじめ、事前取材が充実していた。再放送して欲しい。

- *印象に残ったのは、住民の「避難指示が遅い。あれでは逃げない」、「堤防が決壊したから逃げてと言われてたらすぐ逃げた」や自治体の担当者らの「基本ルールを知らなかった」、「警報を出せなかった」などの生の声。番組全体としてもっと「当事者の声」を聞きたかった。
- *自治体の危機管理課も数人で対応しているという現状がわかってよかった。「数人で対応していて限界」と言われると住民も自分で気をつけようということになると思う。
- *特別警報の持つ意味が自治体の中で今あやふやになっている実態を番組の中でうまくえぐり出していた。
- *災害対応と言うと、どうしても役所任せ的などころになりがちだが、役所を待っているのではなく自分で判断する大切さを出演者の山崎登国士舘大学教授が強調していたのは非常によかった。
- *自治体の危機管理担当者がインタビューで「プロフェッショナルがいない、公務員だけで判断していいのか」という悩みを吐露していたが、その先の提言的などころも紹介するべきでは？
- *できれば自治体の危機管理の成功例も70自治体のアンケートであぶり出せればよかったのでは？
- *番組の最後で豪雨災害が大阪であった場合、淀川が決壊して梅田の地下街が水没するシミュレーション映像を玉巻映美アナウンサーが紹介していたが、コーナー自体唐突で「危機感を覚えます」と言っている割には緊迫感が伝わってこなかった。シミュレーションの根拠も示して欲しい。
- *岡山県倉敷市真備町、愛媛県宇和島市吉田町、広島県熊野町の3箇所の中継があったものの、現場の地元局のアナウンサーがほとんど動かず臨場感がなかった。番組をなぜ生放送にしているのかわからない。
- *山崎教授が自治体の警告が住民の避難行動に結びつかなかったのは、「自分だけは大丈夫だと思いたい」という、心理学でいう「正常性バイ

アス」が働いたからと説明していたが、すごく重要な情報なのでそこをもっと掘り下げて説明してほしい。

*番組全体の流れを随時紹介すれば理解が深まったと思う。「この番組ではこんなことをやります。最後は梅田の地下街です」のようなメニューボードみたいなものがあればよかった。

*番組タイトルは「その時、何を信じれば」みたいな曖昧なものではなく、「その時、逃げろ」のような、もうちょっとインパクトのある、少し煽るようなタイトルでもよかったのでは？ 「逃げろ」というメッセージを全面に打ち出さないと伝わらない。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

*災害が起きた時にいかに迅速に報道できるかが大切だが、相応の準備がないと急に1時間の特別番組というのは難しい。そのため西日本豪雨災害から3か月という検証番組ではあるものの、西日本の系列局からの生中継を入れることによって、この番組が、今後災害が起きた時にいち早く各局で協力し合って番組ができる体制づくりの端緒になってほしいと考えた。

*当初タイトルは「災害列島ニッポン 人はなぜ逃げないのか」になる予定だった。共同制作の広島局から、広島では5年前に同じような土砂災害が発生し、かなりの人が逃げたけれども被害を受けた人が多くいたということがあり、「なぜ逃げないのか」とか「逃げろ」とかいうメッセージを全面に掲げるのはやめてほしいという意見を受け、今回のタイトルに落ち着いた。

以上